

令和2年第2回北海道議会定例会 予算特別委員会（総括質疑）開催状況（環境生活部）

開催年月日 令和2年7月2日（木）
 質問者 日本共産党 宮川 潤 委員
 答弁者 知事 鈴木 直道

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>三 地球温暖化対策について</p> <p>（一）北海道地球温暖化対策推進計画の総括・評価について 温室効果ガス排出量の目標ですが、1990年の排出量6,582万トンの7パーセント減、6,099万トン今年までの目標としていますが、2016年度の時点ですでに6.6パーセント増の7,017トンになっております。北海道地球温暖化対策推進計画、新たに今年度作り直すということですが、総括・評価を厳しく行って、次期計画に当たるべきと考えますがいかがですか。</p> <p>（二）温室効果ガス排出量増加について 温室効果ガスは7パーセント基準年より減らすという目標なのに7パーセントに到達しないどころか、増やしているということについて、どう評価されてますか。</p> <p>（三）温室効果ガス排出削減の取り組みについて 私は温室効果ガス排出削減に向けて、抜本的な取組を強化する必要があると考えます。 道の公共事業において、各部からの予算の要望に対して温室効果ガス排出削減の取組がそこに位置づけられているかというところではないようです。私は知事自身、道庁自身が温室効果ガス排出削減のために強い意志を示す、強い姿勢を示すということが必要だと思いますけれども、いかがですか。</p> <p>私は知事のもとです、これまでの取組が抜本的に変わる、強まっていくということがなければ、目標達成はほど遠いと思いますので、ぜひその点です、いままでの延長線上ではない取組を検討していただきたいというふうに思います。</p>	<p>（知事） 次期計画の策定についてであります、道では、地球温暖化対策推進計画に基づく施策の実施状況等について、毎年度、北海道環境審議会の評価を受け、その結果を公表するとともに、各種施策の見直しなどに活用しているところでございます。 道といたしましては、今年度で計画期間を終える現行計画の見直しにあたって、これまでの評価結果や目標の達成状況などについて、環境審議会のご意見をいただきながら、新たな目標の達成に向けた、効果的な施策とあわせ、長期的な視点に立った取組の方向性や推進方策についても検討する考えであります。</p> <p>（知事） 温室効果ガス排出量の状況についてであります、本道の温室効果ガス排出量は、オフィスや店舗などの民生（業務）部門における電力消費量や、電源構成における火力発電の割合が増加したことなどにより、基準年に比べ増加をしており、近年、減少傾向にあるものの、想定よりも削減が進んでおらず、現時点では、削減目標の達成が厳しい状況でございます。 こうした状況を踏まえ、私といたしましては、温室効果ガスの排出削減に取り組むことの重要性を改めて認識するとともに、現行計画の見直しを行い、さらなる削減に向け、効果的な温暖化対策に、道民の皆様や事業者の方々と一緒に取り組んでまいります。</p> <p>（知事） 今後の温暖化対策の取組についてであります、道では、気候変動を巡る国際的な動向や国の「パリ協定に基づく長期戦略」などを踏まえ、長期的な視点を持って温暖化対策を進め、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す考えであります。 私といたしましては、現在進めている「北海道地球温暖化対策推進計画」の見直しにおいて、こうした長期的視点に立った取組の推進方策などの検討を行いますとともに、様々な施策について脱炭素化の視点を共有しながら推進し、再生可能エネルギーや森林吸収量など本道の優位性を最大限活かした取組に加えて、本道ならではの環境イノベーションの誘導・展開などに、庁内はもとより、道民の皆様や事業者の方々との連携を一層進め、ゼロカーボンの実現に向けて取り組んでまいります。</p>